



瀬小っ子だよりでは、子どもたちのよりよい成長を願って、教育や子育てに役立つ情報を発信していきます。「子どもの成長」に向けて、学校と家庭がそれぞれの役割を発揮し、連携・協力することで、日々の教育活動の活性化に繋がっていけると考えています。興味・関心のある情報を発信していきますので、ぜひ一読下さい。

よりよい子育てスタイルとは

子どもの成長に必要な意識とは？

「子どもをのびのび育てたい。」と願う一方で、子どもの良くない行動が見られると、「ダメ」と注意をしたり、親として制限を加えたりすることがあり、「これでよかったのかな」や「思うようにいかない」と感じた経験は誰にもあるのではないのでしょうか。幼少期や小学校時代は、のびのび育てた方がよいという考え方や、親が管理しない方が子どもが伸びるという考え方が本やテレビなどで報じられているのを目にしますが、親として、子どもの思うようにさせてやるのが良いのでしょうか。それとも子どもに積極的に介入して、正しく導いていくべきなのでしょうか。今日は、親として知っておきたい2つの養育スタイルを紹介したいと思います。

どちらの教育観に近いでしょうか

例1 子どもの忘れ物に対する意識。

A「忘れ物で困らないように事前に声かけ（確認）をしよう。」

B「困るのは子ども自身だから怒られて本人が学べばよい。」

例2 学習に対する意識

A「ひらがなや漢字は、自然に身に付く訳でないので、練習をさせよう。」

B「小学校に入ったら（学校に行ったら）自然とひらがなや漢字を覚える。」

Aは「意図的養育」、Bは「放任的養育」という考え方に基づいています。

意図的養育と放任的養育とは？

『教育格差』（松岡亮二 著）によると、Aの「意図的養育」とは、「子どもの生活に親の意図的・計画的な介入があってこそ、子どもは育つ」という考え方です。具体的には、習い事に参加させたり、テレビやゲームの時間を制限したり、議論や交渉を含めた話し合いをよしとする養育スタイルです。このような養育スタイルで育った子どもは、他人に対して、堂々と自分の要求を伝えられるようになるといいます。

一方、Bの「放任的養育」とは、「自然な成長を前提として、放っておいても子どもは育つ」という考え方です。具体的には、子どもの「自由」な時間が多く、テレビや

ゲームの時間が制限されず、親は子どもと話し合うのではなく、命令口調で従わせる養育スタイルです。このような養育スタイルで育った子どもは、大人に対して自分の要求をためらい、権威のあるものに従いやすくなるといいます。

「意図的養育」が子どもの成長を促す。

この二つの養育スタイルは、どちらが正しくてどちらが間違っているというものではありません。子どもの発達段階や置かれている状況によっても変わってきます。しかし、日本の現状を調べると、「放任的養育」の家庭で育った子どもは、「意図的養育」の家庭で育った子どもよりも、学力面では、悪い結果となっていました。

また、「意図的養育」によって、望ましい行動や態度、技術を身に付けた子どもの方が、自己肯定感も高い傾向にあるということが分かっています。

さらに、親の関わりと子どもの成長の関係を見ると、「意図的養育」によって育った子どもの家庭では、幼い頃に子どもに様々な体験をさせようと、習い事をしたり、様々な場所に連れて行ったりするそうです。そして、小学校4年生ごろから、徐々に勉強以外のことから勉強にシフトチェンジをしていく傾向が見られます。一方、「放任的養育」の家庭では、小学校4年生以降も関わり方にあまり変化が見られないという傾向があるそうです。その結果、「意図的養育」の家庭で育った学力面では有利になるのです。

各家庭で早いうちから子どもが自然と学習に向かうように、知的好奇心を育むような取り組みを行ったり、学習習慣を身に付けたりしておくのが良いかもしれません。

最後に、気を付けてもらいたいことがあります。それは、「意図的養育」と強制は違うということです。「この習い事をしなさい。」「勉強しなさい。」と強制することは、「意図的養育」ではありません。子どもがやらされているという感覚ではなくて、自らの意思で選んでやっているという気持ちにさせることが重要です。身近な大人として、「どんな子に育てたいか」を考え、子どもと適切に関わり、正しい方向性を導いていき、子どもの成長を促すことが大切なのではないでしょうか。

家庭で実践（関わり編）

子どもの成長を促すための 行動4カ条

（行動1）一緒にやる姿を見せる。

（大人が行動で示すことで、子どもが興味をもって取り組むようになります。）

例：本好きの子は、父母も本好きの場合が多い。）

（行動2）豊かな体験活動の機会を充実させよう。

（家族で公園に行くだけでも、子どもの成長へつながります。）

（行動3）我が家の方針・ルールを示し、親子で守っていこう。

（我が家の年中行事や、テレビやゲームの時間を制限し、規律ある生活を送っていきましょう。）

（行動4）地域の人や大人が子育てに積極的に参画しよう。

（積極的に関わることで、大人としての生き方を見せることができます。）